

キャリアアップガイド〔農学職〕

職 種	農学
職務内容	・ 農業の振興 ・ 農産物の流通、食育に関すること ・ 農業団体の指導 ・ 農地調整、農村対策 ・ 農業技術・経営に関する試験研究 ・ 農業技術・経営に関する普及指導 ・ 農業の担い手に対する教育及び研修
主な配属先	・ 農業水産局本庁 ・ 農林水産事務所（農政課、農業改良普及課） ・ 農業総合試験場 ・ 農業大学校
め ざ す 職 員 像	農学職として、高い専門知識・技術力と高度な企画・調整能力を持ち、総合的な視点から判断し行動することができる職員

＜育成の考え方＞

- ・ 農学職として基礎的な技術・知識を習得するとともに、適性を見出すため、2ヶ所の所属を経験し、可能な限り、行政（本庁及び農林水産事務所農政課）、研究（農業総合試験場）、普及（農林水産事務所農業改良普及課）及び教育（農業大学校）のうち2部門を経験するジョブローテーションを行う。研究、普及及び教育に配属した職員については、原則普及指導員資格を取得し、有資格者として実務を経験する。
- ・ 2部門を経験後は、職員の適性に応じて行政または試験研究、普及、教育に配属し、農学職として高い専門知識と高度な企画・調整能力を持ち、総合的な視点から判断し行動することができる職員の育成を図る。

＜主な職務内容別の方針＞

〔行政〕

- ・ 本庁及び農林水産事務所農政課において組合指導、農地調整・農村対策、農業の振興、農産物の流通対策の業務に従事し、実務経験を通じて高い事務処理能力、企画・調整・折衝能力、県民・関係機関等に対する適切な指導力を有する専門知識を持った職員を育成する。

〔研究〕

- ・ 農業総合試験場において、農業現場の課題を解決する技術・品種等を開発するために、可能な限り長期に研究に従事させ、高い専門性と高度な技術を持ち、適切な研究テーマを立案、遂行し、現場や関係機関と連携できる研究員を育成する。

〔普及〕

- ・ 農林水産事務所農業改良普及課において直接農業者と接し、専門分野の知識・技術及びコーディネーターとして必要な企画、調整、折衝、連携能力を発揮し地域のプロジェクト・リーダーとして活躍できる普及指導員を育成する。適性に応じて高度な専門性と技術力を有し、県内外の関係機関との連携調整業務、普及指導員の指導に従事する農業革新支援専門員として活動する。

〔教育〕

- ・ 農業大学校において技術力、授業計画の立案及び遂行能力、指導力及び専攻運営能力を発揮し農業を志す学生に対する教育や農業の担い手等に対する研修に従事する職員を育成する。

《キャリアイメージ》

区 分	農 学		農 学	
	異 動・配 属 の 考 え 方	必要とされる知識・能力	取得が望ましい資格等	受講すべき研修等
新規採用	基礎的な技術・知識の習得や適切な指導を受けることに適した所属に配属する。 この場合、原則として普及指導員資格取得に必要な実務経験として認められる所属に配属する。 【資格取得に必要な実務経験として認められる地方機関※】 農林水産事務所農業改良普及課、農業大学校、農業総合試験場	【採用3年目まで】 ・農学職として農業の現場を理解 ・担当業務に必要な技術等に関する基礎知識 ・普及指導員資格の取得に必要な知識・実務経験		【農林水産部門研修】 ・新任農林水産部門職員研修 【行政】 担当業務に応じた国・県の研修会等を受講
技師・主任 (採用後8年間)	専門性の高い技術・知識の習得とともに適性を見出すため、計画的に異動を行う。 ①2ヶ所の所属を経験する。 ②可能な限り、行政、試験研究、普及及び教育のうち2部門を経験する。 ③資格取得に必要な実務経験として認められる所属(※)に配属した職員については、原則普及指導員資格を取得し、有資格者として実務を経験する。	【採用8年目まで】 ・農業関係法令、国・県の計画や方針に関する専門知識、担当業務に必要な技術等に関する専門知識、課題遂行能力	・普及指導員資格	【研究】 集合研修の他、経験及び習得が必要な技術・知識に応じて国や大学への派遣研修を実施 ・新任研究員研修 ・研究マネジメント研修
主任級 (9年目以降)	職務経験を積み重ね、適性を見出すとともに、実務の中心的役割を担う職員を目指す。	【採用9年目以降】 ・実務の中心的役割を担うために必要な専門知識、企画立案、課題解決能力、リスク管理能力		【普及】 普及指導初任者にはOJT研修を実施。習得が必要な技術・知識に応じて国の研修を受講 ・実践指導力強化研修
主査級	【行政】 本庁 農林水産事務所(農政課) ○本庁、地方機関(農政課)において組合指導、農地調整・農村対策、農業の振興、農産物の流通対策に関して実務経験を通じ、専門知識を持った職員として業務に従事 【研究】 農業総合試験場 ○農業総合試験場において、可能な限り長期に研究に従事 ○現場の課題を解決する技術・品種等を開発するために高い専門性・高度な技術を習得する。 【普及】 農林水産事務所(農業改良普及課) ○地方機関(農業改良普及課)において、普及指導員として直接農業者と接し、技術・経営指導、担い手育成業務に従事。 ○農業総合試験場において農業革新支援専門員として普及指導員の指導及び県内外の関係機関との連携調整業務に従事 【教育】 農業大学校 ○農業大学校において農業後継者を志す学生及び農業の担い手等に対し農業に関する教育及び研修業務に従事。 課題を設定し自ら取り組むことにより、農学職としての能力・資質に磨きをかけ、後輩の指導・育成とともに、実務の中心的役割を担う職員をめざす。	<行政>事務処理能力、企画・調整・折衝・連携力。県民、関係機関等に対する適切な指導力 <研究>一般的な研究課題、公募型研究課題の立案及び課題遂行力。関係機関との連携、現場対応力 <普及>現場の課題解決のための専門知識・技術力、コーディネーターとして必要な企画・調整・折衝・連携力。地域のプロジェクト・リーダーとしての能力 <教育>技術力、授業計画の立案及び遂行能力。指導力及び専攻運営能力		・専門指導力強化研修 ・総合指導力強化研修 ・企画・運営指導力強化研修 【教育】 農業大学校初任者にはOJT研修を実施する他、習得が必要な技術・知識に応じて国の研修を受講 ・指導職員研修
課長補佐級	農学職として、高い専門知識・技術力と高度な企画・調整能力を持ち、総合的な視点から判断し行動することができる職員をめざす。	・担当業務のリーダーとしての企画・調整・マネジメント能力		
課長補佐 (グループ班長)	グループ班長として、かつ専門分野のリーダーとして業務推進するとともに、人材育成など組織マネジメントを行う。	・グループリーダーとしての組織マネジメント能力及びリスク管理能力		
備考 (その他関連措置)				